



第1号 ご挨拶

RPA (Robotic Process Automation: デジタルレイバー) という言葉は、2017年に急速に皆様の知るところとなりました。弊社のお客様でも、日系企業は、日本の本社だけでなく中国子会社においても一部の企業で導入が始まっています。弊社では、中国の国営企業や民営企業に対しても導入支援をしており、その普及のスピードには目を見張るものがあります。そこでは、納得するまで潜在的な問題点について事前に議論を続け導入に慎重な日本企業と、まずは導入して、走りながら修正を加えていくという中国企業の経営スタイルの違いが顕著に表れています。2018年はRPAをはじめとしたロボットが多くの企業の業務で定着するものと思います。忠実に指示に従い疲れることのないロボット(デジタルレイバー)が、単純反復作業を一気に引き受け、業務の大幅な効率化と時間短縮が実現されることでしょう。そして、新しい業務スタイルに変革されるとき、ロボットの運用管理、新しいガバナンスの仕組みが必要になってきます。

KPMG 中国 GJP 中国総代表 高部 一郎

1. RPA 高度化に向けた方法論と活用事例

働き方改革や生産性改善に向けた施策の1つとして、多くの企業で導入が進んでいる仮想的労働者(Digital Labor: デジタルレイバー)とも呼ばれるRPAですが、一定の効果を実感した企業が、昨今増えてきています。効果検証後の次のステップとして、RPA化業務範囲の拡張へと駒を進めますが、新たな壁により推進に困窮している企業が多く見受けられます。次々に誕生していくソフトウェアロボット(以下「ロボット」という)を効率的かつ確実にユーザーに定着化させていくにはどのようにしたらよいか、また、その際の運用管理方針や組織体の在り方はどのように定義すればよいか分からない、といった問題です。

RPAの稼働状況の把握や案件の予実管理、指標による評価もできない状態など、リスクコントロールやガバナンス不在の運用となり、RPA導入範囲の拡張は失敗に終わる可能性が高くなります。RPA導入の現場において、いま求められているのは大規模なRPA化を支える新たな自動化/自律化のマネジメント方法論です。本稿においてはKPMGの保有するRPA高度化に向けた方法論について、実際の活用事例を交え解説します。

> [全文はこちら](#) (日本語)

2. 新エネルギー自動車(NEV)産業の税制優遇措置と今後の発展動向(前編)

第12次5カ年計画期間中(2010年~2015年)、持続的に発展した中国の新エネルギー自動車(NEV: New Energy Vehicle)産業は、すでにスタートの段階を終えました。第13次5カ年計画(2016年~2020年)に入り、中国のNEV産業は加速成長の段階に突入しています。

中国は、この産業をさまざまな形で支援しており、現在取られている政策は大きく分けて2種類あります。1つ目は直接的な財政補助金によりNEV購入を助成するというもので、一般特惠関税制度と併せて実施されています。もう1つは、イノベーション、プロセス最適化、研究開発(R&D)等で利益を得る中国の自動車会社を対象としているものです。ハイテク企業への租税優遇に関連する企

業所得税の優遇政策にいくつかの改正が加えられ、企業の研究開発費にさらなる控除が適用されました(50%追加控除)。これらの改正は優遇税制がもたらすメリットの柱となるでしょう。

本稿では前編と後編の2回にわたり、NEV 産業に対する税制面での政府の支援と、政府による今後の規制・管理の変更の方向性を考察します。中でも特に、税制上の優遇措置の可能性と、NEV 産業における研究開発およびイノベーションの傾向について分析します。また後編では、KPMG と AutoForesight 社が実施した NEV 消費者調査の結果から窺える、NEV 市場の特徴についても議論します。

> [全文はこちら](#) (日本語)

3.【対談】AIで「企業経営を変革」するために今できること

オックスフォード大学准教授のマイケル・オズボーン氏が発表した論文“THE FUTURE OF EMPLOYMENT(雇用の未来)”によると、会計士や弁護士、経営者はAIに仕事を奪われる職業だという。だが、本当にそのような万能なAIが出現し、人間から仕事を奪っていくのでしょうか？

日本のAI研究の第一人者である東京大学大学院教授であり、11月21日に日本で開催されたKPMGフォーラムの基調講演者として登壇された、杉山将氏に、現在のAIブームと、その流れの中で企業経営を変革するために何ができるのか、お話を伺いました。

> [全文はこちら](#) (日本語)

Contact us お問い合わせ先

GJP China Markets: gjpmarkets.china@kpmg.com

Tel: [+86 \(21\) 2212 2247](tel:+86(21)22122247) (日本語)